

令和5年度 学力向上に係る効果的な取組事例

「八潮スタンダードを活用した個別最適な学び」

八潮市教育委員会



八潮スタンダードを活用した授業改善



八潮市では、学習指導要領が示す「主体的・対話的で深い学び」を実現する為に、「八潮スタンダード」(目指すべき授業展開を示したモデル)を活用した授業改善を推進しています。教師主導型、説明中心の授業から脱却し、児童生徒の主体的で協働的な学習活動を保障します。

- 自分の関心があることに取り組む【個別最適】
- 友達と考えた内容を話し合う【協働的な学び】
- 多様な考えに触れる中で、自分の考えをより最適なものに変容させる【個別最適・協働的な学び】



事例

指導の個別化を図った授業実践

- 教科名 【算数】 ○単元名【四角形と三角形の面積】
- 目標：平行四辺形の性質に着目し、面積の求め方を考え、説明することができる。

問題

下の平行四辺形 ABCD の面積は何 cm^2 ですか。

課題

平行四辺形の面積はどのように求めればよいのだろうか。

<学習形態>

- ①個人 ②トリオ・ペア ③先生と

<学習方法>

- ①タブレット ②ワークシート ③ノート



八潮スタンダード (学習の流れ)

考える

段階における
個別最適な学習

- 教材や目標に応じて、一人でじっくりと考えたり、学習形態を児童生徒が選択したりしています。
- ICTを活用して、学習方法を児童生徒が選択します。
- 協働的な学びで、自分や集団の力を高めます。
- 自力で課題解決した児童生徒は、友達と意見交換したり、友達をサポートしたりします。

「『個別最適な学び』を目指した取組事例」

八潮市立中川小学校

手立て1



5年生 算数科「比べ方を考えよう」

○個別最適な学びへ向けた工夫

算数科全クラス TT 指導



TT による個に応じた指導の充実を図っている。校内研修で TT マニュアルをもとに役割分担を明確化し、日々誰一人取り残さない授業を目指している。

○本時で取り扱う算数科の見方・考え方

異種の2量の割合としてとらえられる数量の関係に着目し、目的に応じて大きさを比べたり表現したりする方法を図や式などを用いて考え、表現すること。

【成果】

個に応じた指導を充実させることができた。また若手がベテランの教育技術を実践的に学ぶ場にもなった。

【課題】

経験年数の違いによる TT ペアの質の差改善のために役割分担表を作成し、さらなる授業の充実を目指す。

手立て2



3年生 算数科「わり算を考えよう」

○一人一台端末を生かした個別最適な学びへ向けた工夫

eライブラリ (AIドリル)



授業内では適用問題で全員が達成を目指す問題が終了した児童から AI ドリルで個々の学習状況に応じた学習を行っている。授業外では家庭学習や学習タイムで活用している。

○本時で取り扱う算数科の見方・考え方

余りのある除法の問題場面で、余りをどのようにとらえなければいけないかという余りの意味や処理に着目し、図や式などを用いて考え、表現すること。

【成果】

適用問題ではやくできた児童が休むことなく授業時間内いっぱい自分のレベルに合わせた学習ができた。

【課題】

様々な AI ドリルから効果的な教材を選択し、授業内外でさらに活用できる環境を整えていく。

指導の個別化

【学習内容の確実な定着】

必要に応じた重点的な指導、指導方法等の工夫

協働的な学び

個別最適

な学び

学習の個性化

【学習を深め、広げる】

一人一人に応じた学習活動・学習課題の提供

図 (加藤 2022 『個別最適な学び』を実現する算数授業のつくり方) から引用 言葉 (『中教審第 228 号』から引用)

手立て3



2年生 算数科「九九をつくろう かけ算(2)」

○個別最適な学びへ向けた工夫

学びあいタイム (学習形態の工夫・選択)



「自力解決」場面において児童が課題解決の方法を選択できる学習環境を整えている。基本的に児童は自分でやってみたと【①他のやり方がないか考える。②友達と意見交換をする。③悩んでいる友達のサポートをする。④先生と考える。】から誰かの指示で動くのではなく、自分の達成状況に応じて学習形態を選択する。この際、指導者は机間指導で指導に生かす評価をしながら練り上げに向けた準備を TT で協力して行っている。



○本時で取り扱う算数科の見方・考え方

九九を数量の関係に着目して構成する際に、前単元までに活用してきたに関する性質(乗数が1増えると積は被乗数分だけ増える)やきまり(被乗数と乗数を入れ替えても積は変わらないなど)を用いて、図・式・具体的な操作・言葉での説明などの算数的活動を関連させて考え、表現すること。

【成果】

手を挙げて待つ児童やわからずずっと悩む児童が徐々に減り、課題解決のために話し合ったり、交流したりすることができるようになってきた。

【課題】

これまで行ってきた学習形態(ペア・トリオなど)とのバランスを授業ごとに変え、「子供が」主語の授業をさらに充実させる。